

八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

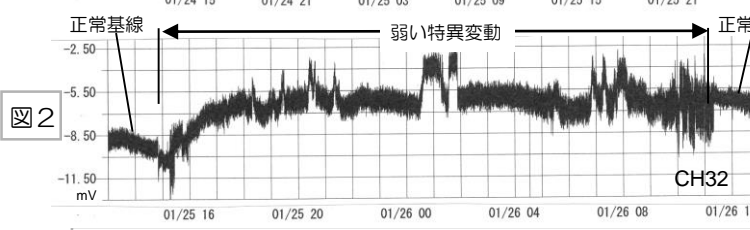
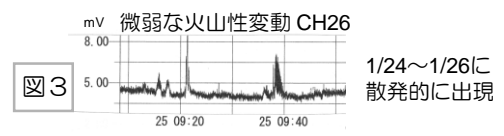
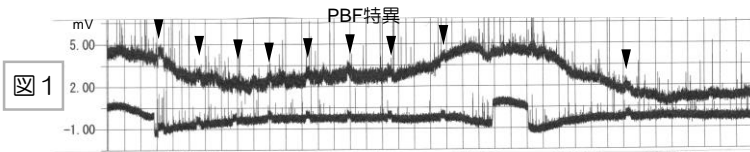
Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報等のみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。本年1/1発生「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様へ配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

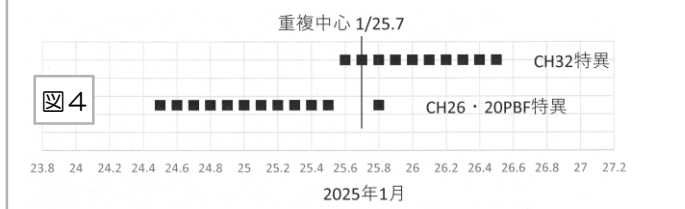
No1778長期継続変動 続報 直前変動認識の変動を観測

対応地震 2/4日±2 (2/4 or 2/5 の可能性考えやすい) 発生の可能性

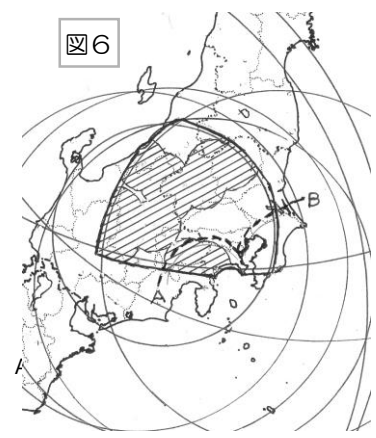
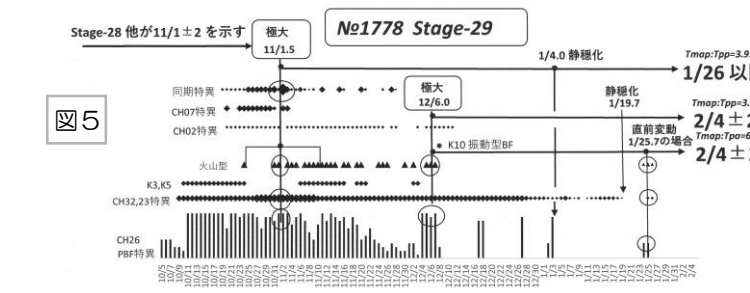


◆前続報では2024.12/8/8に対しCH32特異静穏化で2種の発生時期 (2/3±2又は2/5±2) の可能性を記しました。

◆しかし、図1のとおり、静穏だったCH26・20にPBF特異が短期間再出現。また図2のとおり、静穏だったCH32に短期間特異変動が再出現しました。図3は1/24～26に散発的に出現している微弱なCH26の火山性変動です。



◆1/24～1/26に観測された「CH26・20PBF特異」「CH32特異」「火山性変動」は全て2024.12/6に観測された変動です。この時期だけに短期間に変動が再出現したことから、直前変動の可能性が考えやすいと思われます。12/8.8を極大認識していましたが、PBF特異が顕著化した中心の12/6を極大に修正させて頂きます。従って1/24～26に再出現した変動は12/6極大に対する直前変動の可能性が考えやすい状況となります。図4はCH26・20PBF特異とCH32特異の出現状況図です。PBF特異中心からは、2/4±2発生の可能性が計算され、CH32特異中心からは2/5±2発生の可能性が計算されます。両変動の重複時間帯中心は図4のとおり1/25.7認識で、2/4±2発生の可能性が計算されます。また、2024.12/6極大に対し、CH32の顕著な特異変動が消えた1/19.7を終息として計算しますと、2/4±2発生の可能性が計算されます。従いまして、今後変動出現が観測されなければ、2月4日±2、特に2月4日または2月5日に対応地震発生の可能性が考えやすい見解です。



●推定領域：図6の太線領域内＝大枠推定領域
図6斜線領域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3 または複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkm が合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい (今後噴火変動が観測された場合は続報予定)

●推定時期：2025年2月4日±2 (2月4日 または 2月5日の可能性考えやすい)
(※今後の変動で修正が必要な場合は続報で修正)

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震
○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3 (午前09時±2の可能性若干高い)